

本県農業の 担い手を育成する



愛知県立農業大学校長
三浦 貞志 氏

教育随想

本県は、電照菊で有名なキクを始め、バラ、カーネーションなど花の生産が五十五年連続で全国トップとなっています。また、キャベツやしろ、いちじく、畜産ではブランド鶏として高い認知度を誇る名古屋コーチンを始め、うずら卵や酪農、養豚など多くの品目が全国一あるいは上位の生産を誇っており、農業全体の産出額は全国の第八位、中部地方では最も多い県となっています。

これは、県下各地域で先進的かつ多様な経営が、多くの農業者によって盛んに取り組まれていることの表れであり、この地域で活躍されている農業者の多くを輩出しているのが、愛知県立農業大学校です。

本校は「農業を担うべき者に対する研修教育施設」として、条例に基づき設置されており、前身である「追進



平成 30 年 5 月 1 日

5 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|------------------------------------|---|
| 教育随想…………… | 1 |
| 愛知県立農業大学校長 三浦 貞志 氏 | |
| この人に聞く…………… | 2 |
| 三浦太鼓店 六代目彌市 三浦 和也 氏 | |
| 羅 針 盤…………… | 2 |
| 野外活動指導員 鈴木 優 | |
| ふれあい…………… | 3 |
| 北野小学校 山本奈都美 | |
| 特 集…………… | 4 |
| 未来を担う子供たちに夢と希望を ～岡崎こどもまつりに託す願い～ | |
| お知らせ…………… | 6 |
| フォト・ヒストリー… | 8 |
| 理科授業風景 (大正 7 年) | |
| この本を…………… | 8 |



農場」開設以来八十四年の歴史を有し、これまでに八千名余の卒業生を送り出しています。

現在は教育部と研修部を置き、教育部は主に高校を卒業した若者に対し、二年間、全寮制の下で農場での実習を主体とした教育を施しており、学校教育法に基づく専修学校ともなっています。研修部では、現役の農業者や新たに農業を始めた方などを対象に、九か月間にわたる長期研修を始めとする各種研修を実施しており、両部を併せ県内唯一の農業専門学校と

なっています。

本年度も教育部には百名近い学生が入学し、露地野菜や切り花、酪農など八つの専攻に分かれて、講義や農場実習で農業に必要な知識と技術を真剣に学ぶとともに、共同生活の中で自律性や協調性を育んでいます。

これらの若者の多くが、将来、本県の農業を担う者として羽ばたいていくことを期待して、職員一同、日々の教育に取り組んでいます。

(みうら さだし)



味噌六がつなぐ縁

三浦太鼓店 六代目彌市

三浦 和也 氏

平成三十年元日。新年交礼会のアトラクションで、直径六尺（二メートル弱）の桶太鼓「味噌六太鼓」の深い音が中総の武道館会場に響き渡った。この味噌六太鼓を中心となつて作つたのが三浦さんである。

平成二十七年秋、三浦さんは愛媛県土居町の太鼓祭りの太鼓を作ることに、現地の祭りにも参加した。「巨大な太鼓で、神輿のように担ぐ棒と合わせて二トンあります。それが二十台そろそろ祭りです。百人以上の人を力に合わせて太鼓を担ぎ上げるパフォーマンスを見ました。担ぎ手の気持ち一つになつたときに巨大な太鼓が見事に上がります。その様子に身震いしました。あの感動を岡崎

ならではの太鼓で体験したいと思ひました。」

以前、八丁味噌の樽を譲りたいという話があつたのを思い出した。この味噌樽の板で太鼓を作れば、岡崎ならではの太鼓ができると考えた。

しかし、直径六尺の桶太鼓を作るのは、簡単ではない。桶を作る技術や、桶を締める箍を作る技術が必要になる。

「秋田県の伝統工芸士の方に桶を作る技術を学びに行きました。特別な太鼓を作るために、技術を身につけたいという思いを伝えましたが、その方が亡くなられ、断念せざるを得ませんでした。すると、話を聞いていた遺族の方が、ぜひ使ってくれと、桶作りのための貴重な道具を全て譲ってくれたのです。それからは、全国でも数少ない桶作りの職人を探し出し、何とか弟子入りをして、必死で技術を身につけました。」

こうして、平成二十九年三月から太鼓作りが始まった。

「箍だけでも一本で七十二メートル、それが六本必要です。到底、自分一人では作ることができません。それほど大きな太鼓だからこそ、土居町の祭りのように、みんなの気持ち一つになつて、初めて太鼓や祭りができると思いました。」

ホームページなどで告知をして、太鼓作りや祭りに参加する人を募つた

結果、百人を超える人たちが市内外、県外から集まつた。

七月には、三つ葉葵の紋を入れた太鼓が完成した。六尺の八丁味噌の樽を味噌六と呼ぶことから、完成した太鼓の名前を「味噌六」とした。

「岡崎ならではの太鼓が作れたこと、土居町の祭りのようにみんなで担ぎ上げができたことに本当に感謝しました。たくさんの方がつなぐてきた味噌六。人の縁を感じました。」

八丁味噌を作る職人のことも「味噌六」と呼ぶのにちなみ、太鼓作りや祭りに賛同する人たちで「味噌六人会」を結成した。

「今年の二月から二台目も作り始めました。ゆくゆくは土居町のように、いかに勇壮に担ぎ上げるかを競い、伝統の祭りにしていきたいですね。」

味噌六でつなぐ縁はまだまだ広がっていく。



氏名 みうら かずや
生年月日 昭和五十五年一月二十五日
住所 岡崎市六供町



子供の成長を願う

山の学習

野外活動指導員

鈴木 優

子供にとって魅力的な山の学習にするために、「安全」「楽しさ」「成長」の三つの視点は欠かすことができない。なかでも、教師として最も期待することは、子供の成長であろう。

午前中の活動時間を十分に確保するためには、物品の返納を手際よく行う必要がある。しかし、その意識が強く働かすぎると、合格をもらうためのだけの活動になってしまう。

A教諭は、物品返納こそ、クラスの、そしてB自身の成長の場と捉えた。普段の学校生活で、何事にもあきらめの早いことが、彼の成長を阻害していると感じていたからである。

流し場で、昨夜使ったカレー鍋を抱えて一生懸命磨いているBを見つけると、A教諭は、「がんばって



一緒に歩む

北野小
山本奈都美

「ママ、行かないで。いやだあ。」
二年生最初の社会見学。青空の下、子供たちが友達と楽しく弁当を食べる中、A男の泣き叫ぶ声が響く。私の心の空模様は曇天だった。

A男は一年生の二学期から母親と離れられなくなった。母親の姿が見られないとパニックを起す。そこで、A男は母親と共に登校し、終日母親に廊下においてもらいながら、学校生活を送っていた。いつも母親の影に隠れながら挨拶をするA男の姿を見て、担任として力になりたいと、私は強く思った。

「二年生のうちに完全復活する。」これが、A男と母親と私で立てた目標だ。

しかし、そう簡単にはいかない。A男は自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手で、困ったことがあると母親の元へ行き、泣きつく。母親の姿が見えないと、怒りを爆発させる

こともある。感情をコントロールする練習が必要だと感じ、五月に入ってA男といくつかの約束を作った。「お母さんに会いたいカード」を先生に見せること、「『かえるタイマー』が鳴ったら帰ってくること」など、自分で考えて行動できるようにした。また、母親にも協力してもらい、廊下で過ごす時間を調整するようにした。すると、一学期末には、午後は一人で過ごせる日が増えた。

このまま不安がなくなればA男は自立できる。そう考えた私は二学期から次の手を打つことにした。

「明日から、毎朝迎えに来るね。」私が伝えると、A男は困った顔をして母親の方を見た。明日から通学団登校しなければならぬという強い不安に駆られたのだろう。小さくうなずいたが、私と目を合わそうとしなかった。

次の日、玄関先でA男は母親に抱き付けて泣いていた。先生が来ているから行かないといけない。でも行けない。そう思っているのは分かった。でもここで引くわけにはいかない。涙を無視して明るく尋ねた。「今日はどうする。ママと行くなら、そう言って。」

A男の意志が聞きたくて、口を開くのをゆっくり待った。

「ママと行く。」

「よく言えたね。じゃあ、学校でね。」そう言って、私は学校へ戻った。それから一か月、私はA男に断ら



れながらも、毎朝通い続けた。

ある朝、いつもどおり私が訪ねると、「今日は先生と行けるかもしれん。」この日はA男の顔に力が感じられた。「行ってきます。」

A男と一緒に母親に手を振る。昨日までが嘘のように、通学団の子と話しながら、楽しそうに登校している。私は、その様子を列の最後尾から見守った。

A男が通学班と一緒に登校するようになっても、母親は別で来校し、廊下で見守る日々は続いた。廊下が底冷えする十二月。

「明日からママが来なくても行けるかもしれん。」

その日は突然やってきた。

私は母親と顔を見合わせた。寄り添い続けた日々を通して、コップに水が満ちるように、A男の心に自信と安心感があふれてきたのだと感じた。

三月、二年生最後の校外学習。青空の下、A男は友達と楽しく弁当を食べている。A男も母親も私も、心の空模様は快晴だった。

るね」と声をかけた。そしてBが磨きやすいように、鍋のふちを両手でおさえた。Bの息が上がってくると、「よし、今度は先生の番」と言って、A教諭はナイロンたわしを手にして磨き始めた。その鍋をBは両手でしっかりとおさえた。初夏とはいえ、汗ばむ陽気。交互に繰り返す二人の額からは、汗がしたり落ちている。

ところが、満を持して点検を受けた結果は不合格。鍋の持ち手の付け根に残るわずかな煤(すす)を指摘されたのだ。「そんな煤ぐらいいいじゃないか」と言わんばかりの大きなため息と共に、いつものあきらめの表情を見せ始めるB。しかしA教諭は、間髪を入れず、「よし、もう一度やろう。がんばるよ」とBに声をかけ、ナイロンたわしで再び磨き始めた。Bの成長を願うA教諭の言動が、Bのくじけそうになった心をそっと支えた。Bは、A教諭が磨く鍋のふちを強く握り、これまでになく真剣な表情を見せた。

学校生活で担任と子供が第三者に指導を受ける機会はほとんどない。山の学習は、教師と子供が共に頑張る、汗を流すよい機会である。子供の成長を真に願う教師の温かなまなざし、そして言動は、子供にとって生涯の思い出となるはずだ。

未来を担う子供たちに夢と希望を

～岡崎こどもまつりに託す願い～



▲いかだコーナー
(大門・大樹寺・奥殿・岩津・細川・恵田)
第1回から変わらず続く定番コーナー。こどもまつりが始まると、すぐに行列ができる。

竹馬コーナー ▶
(常磐・常磐東・常磐南)
親子や家族で協力しながら楽しむことができる。

体を動かす



▲モンキーブリッジコーナー
(ボーイスカウト)
ロープアスレチックや野外料理など、子供たちの笑い声が最も響くコーナーの一つ。



◀開会テープカット



岡崎こどもまつり実行委員長
岡崎市子ども会育成者
連絡協議会会長
市川 賀三 さん

よりたくさんの方に参加してほしい。親子で外遊びを楽しんでほしい。そんな思いで続けています。

最近は遊ぶ場所も、遊びに使える材料も、そして遊びを伝える人も不足して苦労しました。しかし、この「こどもまつり」で楽しい思い出を作った子供たちが、次の運営者として協力してくれるようになると、人と人がつながり、子供たちがもっと明るく、そして元気よく過ごせるようになってほしいと思っています。

過日、殿橋下流の乙川河川敷で「岡崎こどもまつり」が開催された。この催しでは、川を挟んで会場を四つのエリアに区切り、各学区や団体の趣向を凝らした遊びが行われている。四十五回目を迎えた今年も、多くの親子連れで賑わった。

昭和四十年代後半、高度経済成長によってマイカーが増え、交通事故が増加した。その結果、子供たちの遊び場は狭められ、戸外で遊ぶことが次第に難しくなっていく。子供たちに遊び場を取り戻し、夢をもたせたい。外での遊びが難しくなる子供たちの姿を憂う市民や教育関係者の願いから、昭和四十八年に岡崎市教育委員会と現職研修特活部が主催し、「第一回こどもまつり」が開催された。

現在は、未来を担う子供たちに夢と希望を与え、市民全員で子供の健全な育成を図るために「岡崎こどもまつり」として開催されている。親子がそろって新緑の野外を楽しむことを基本とし、「体を動かす」「つくる」「ふれあう」など様々な遊びができるコーナーを設けている。毎年、参加者は五万人を超え、たくさんの笑顔があふれる一日となっている。

今後は、運営世代の若返りを狙う。かつて「こどもまつり」を楽しんだ中高生が、地域のジュニアリーダーとなって企画・運営に加わっていくことが理想だ。まさに、上級生が下級生の面倒を見るような、子供たちによる、子供たちのための催しとなることを願う。

つくる



▲ 缶げたコーナー（広幡・根石）
ブリキの缶を使って、親子で協力して缶げたを作り、楽しく遊ぶことができる。

◀ オリジナルマグネットコーナー
（翔南中 現代芸術文化部）
平成24年度の生徒市議会で提案されたアイデアが実現し、生徒会連絡協議会を代表して翔南中の現代芸術文化部が協力をしている。オリジナルマグネット作りは大盛況で、あっという間に材料がなくなってしまう。



▲ 木片あそびコーナー（六ツ美南・城南）
地元企業も積極的に協力。慣れない電動糸のこに悪戦苦闘しながらオリジナルパズルを制作。



▲ むりえコーナー（岡崎人権擁護委員会）
小さい子でも気軽に楽しめる遊びも充実。



▲ ポニーの広場コーナー
（男川・美合・緑丘・小豆）
ポニーに乗ることができる。動物とふれあうコーナーは大人気。
（※写真は子ども会50周年記念誌より）

ふれあう



▲ 魚つかみコーナー
（矢作北・矢作西・矢作東・矢作南・北野）
第1回から続く大人気コーナー。生きた魚にさわると子供たちの歓声が響く。



◀ イベントコーナー
葵武将隊も参加して会場を盛り上げる。一緒に踊る子供たちにとっても思い出に残る。

※断りのない写真は全て平成29年度時のものです。



● 教育関係機関だより

◆ 教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十
七か所の教科書センターで、
開催される。

県教育委員会では、県民の
教科書に対する理解や関心を
深めるために、教科書展示会
を開催する。なお、障がい
のある児童・生徒の教科書につ
いては、愛知県総合教育セン
ターで展示する。

岡崎地区の教科書センター
は、岡崎市中央図書館内にあ
る。展示会も、中央図書館で
行われる。展示会場には、投
書箱が用意されている。教科書
に対する意見や要望を投稿す
ることができ、教科書につい
て広く意見を聞く場となっ
ている。

○ 展示会場

・岡崎市中央図書館

一 Fレファレンスライブラリー

・岡崎市康生通西四一七十一

三三三三二二

○ 展示期間

平成三十年六月八日(金)

七月二日(月)

※ 休館日(水曜日)を除く

○ 展示教科書

平成三十年度使用の教科書

○ 教科書改訂の予定

「特別の教科 道徳」の教科書

採択は小学校は昨年、中学校

は本年になる。また、その他

の教科書採択は小学校が本年、

中学校は平成三十一年に予定

されている。

使用開始は、それぞれ採択

の次の年になる。

現教科書は、今年度を含め、

小学校は一年、中学校は二年

使用される予定である。

● 表彰

◆ 全日本空手道松濤館東海地区選手権

○ 小学校一年生(組手)

一位 竜谷小 小林 蒼空

○ 小学校一年生(形)

二位 竜谷小 小林 蒼空

○ 小学校四年生(組手)

二位 竜谷小 小林 優斗

◆ 42回愛知県空手道選手権大会

○ 小学六年生 組手の部

一位 羽根小 坂口 惶哉

○ 小学六年生 形の部

一位 羽根小 坂口 惶哉

◆ 中部日本個人・重奏コンテスト(本大会)

○ 中学校 個人の部

金賞 北中 浅井 珠奈

(ユーフォニアム)

竜海中 成田 百花

(フルート)

銀賞 矢作中 内村 珠理

(アルトサクソフォン)

○ 中学校部門 重奏の部

金賞 竜海中 金管八重奏

銀賞 新香山中 サクソフォン四重奏

北中 菅打八重奏

銅賞 南中 金管九重奏

◆ 第25回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト

金賞 六ツ美北中学校 B

銀賞 常磐中学校

六ツ美北中学校 A

六ツ美北中学校 A

矢作中学校 A

竜海中学校 A

竜海中学校 B

矢作中学校 B

銅賞 矢作中学校 B

◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け

た小・中学生ポスター募集

銀賞 六美北中 久野 凌

◆ 第14回都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会

○ 中学生の部

優勝 愛知県選抜

(甲山中) 石川 晴菜

(矢作北中) 土谷 琉華

◆ 東海ブロック中学生バレーボール新人大会

○ 男子の部

二位 矢作中学校

◆ 第1回「アルマのリサイクル」作品コンクール

優秀賞 梅園小 鈴木 杏奈

会 計 本間 茂夫(男川小)

庶務補佐 杉原恵美子(六美北中)

山本 満夫(城北中)

◆ 第54回全国児童才能開発コンテスト

○ 作文部門

全国都道府県教育長協議会会長賞

梅園小 魚地 小陽

財団奨励賞

梅園小 伊藤 有輝

梅園小 梶原 千櫻

梅園小 浅井 心夢

山田まはろ

都築 宥

梅園小学校

学校奨励賞

梅園小学校

○ 図画部門

佳作賞 梅園小 加納 愛子

● 平成三十年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会 長 長坂 洋人(岩津中)

副会長 山口 明則(豊富小)

加藤 勝巳(竜海中)

福田 貴子(本宿小)

田村 康則(連尺小)

中村 公治(東海中)

高須 亮平(梅園小)

都筑 祐一(葵 中)

庶務 杉原恵美子(六美北中)

山本 満夫(城北中)

本間 茂夫(男川小)

和田 実(南 中) 会計監査 荻野 卓寛(北 中)
 小田 昌男(岡崎小) 庶務 都筑 祐一(葵 中)
 内藤 隆之(奥殿小) 会計 北村 文啓(額田中)
 荒井 留美(常磐小) 会計補佐 酒井 洋一(矢作北中)
 岡本 弘(羽根小)

〈専門委員会長〉

法制 荻野 款司(六美北中)
 教育条件 荻野 卓寛(北 中)
 鳥居 是典(矢作南小) 学校経営 鳥居 是典(矢作南小)
 佐藤 孝子(夏山小) 進路 荻須 文裕(河合中)
 清水 範彦(小豆坂小) 保体 小田 英宣(六美西小)
 小島 寛史(岩津小) 福安 都築 和夫(北野小)
 大西 和夫(六美東小) 給食 名倉 嘉章(新香山中)
 荻野 卓寛(北 中) 生徒指導 中垣 明道(六美中)
 荻野 款司(六美北中) 特別支援 酒井 洋一(矢作北中)
 北村 文啓(額田中) 広報 太田 幹雄(秦梨小)
 永野 光雄(矢作中)
 名倉 嘉章(新香山中)
 酒井 洋一(矢作北中)

●平成三十年度特別委員会

平成三十年度は以下の十一
 委員会を置き、岡崎市の教育
 活動の充実・発展を図る。

会長 山口 明則(豊富小)
 副会長 福田 貴子(本宿小)

会計監査 田村 康則(連尺小)
 庶務 内藤 隆之(奥殿小)

会計 杉原恵美子(六美北中)
 会 本間 茂夫(男川小)

会計補佐 小島 寛史(岩津小)

〈中学校長会〉

会長 加藤 勝巳(竜海中)
 副会長 中村 公治(東海中)
 山本 満夫(城北中)

情報教育推進委員会

長 名倉 嘉章(新香山中)

副 小田 哲也(愛宕小)

郷土読本編集委員会

長 山内 貴弘(福岡中)

副 石原 真吾(大門小)

授業改善委員会

長 加藤 有悟(三島小)

副 小田 英宣(六美西小)

英語が話せるおかざきっ子
研究委員会

長 十河 幸代(六名小)

副 柵木 智幸(甲山中)

学校評価委員会

長 中野渡善樹(竜南中)

科学の心を育てる委員会

長 荻須 文裕(河合中)

教員免許更新特別委員会

長 長坂 博子(生平小)

総合学習センター整備検討
委員会

長 磯村 彰久(緑丘小)

副 岡 秀之(宮崎小)

●平成三十年度研究発表校

今年度の研究発表校は、市

委嘱の発表校が三校、自主発

表校が一校、愛知県家庭科教

育研究会委嘱の発表校が一校

である。

○市委嘱研究発表

・六ツ美南部小学校
十月十七日(水)

国語・算数

「対話でつなぐ授業 一考察」

・六名小学校
十一月七日(水)

英語

「六つのワードで六名English
〜英語に慣れ親しみ、より
よいコミュニケーションを
図る子の育成〜」

・城北中学校
十一月十四日(水)

道徳

「多様な価値観を認め合い、
たくましく未来を生き抜く
力を育む道徳教育〜道徳的
諸価値から、よりよい生き
方を語り合うための「特別
の教科 道徳」」

○自主発表(紙上)

・竜海中学校
全教科・特別支援

「わかる学習指導第11次研究
(四年次)」

チャレンジ竜海式 Activ
learning | コミュニ

セッションを取り入れた教科
学習を中心に

・愛知県家庭科教育研究会岡崎
大会

・常磐小学校
十月三十一日(水)

家庭科

「豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育」持
続可能な社会の構築を視点
とした「消費生活・環境」
の授業作り」

・岡崎市教育委員訪問

・秦梨小学校 六月二十一日

・矢作北小学校 六月二十五日

・夏山小学校 九月二十七日

・美川中学校 十月四日

・常磐南小学校 十月二十五日

・細川小学校 十一月二十二日

○合同訪問

・六美北部小学校 六月十四日

・城北中学校 六月十四日

・宮崎小学校 六月十四日

・岩津小学校 十一月十五日

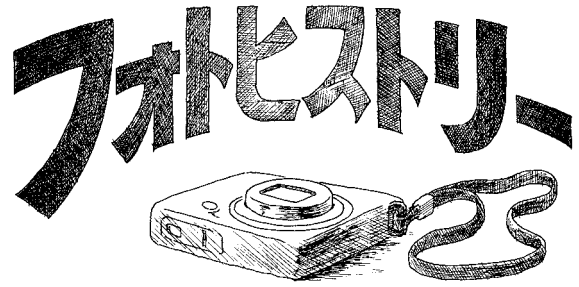
・上地小学校 十一月十五日

・竜南中学校 十一月十五日

・カ
ツ
ト
矢作北中 成田 絢香

理科授業風景 (大正7年)

写真提供：梅園小学校

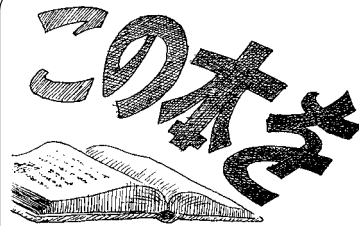


この写真は、子供たちが理科の授業で石炭について研究したことを発表し、自発的に意見交換している授業風景である。

当時梅園小学校では、十五代石田利作校長の「教育は児童の自発的意志に基づくべきである」という先進的な考えのもと、自学自習、自治活動が盛んに行われていた。

この流れを受け、自学時間の設定、予習・復習の徹底、発表の奨励、自治会など、子供の個性と自由を尊重した教育が広がっていった。

当時も教授中心ではなく、子供が活躍する姿を求める岡崎の教師の姿があった。



*ヒトは「いじめ」をやめられない 中野 信子
小学館新書 ￥780

心に残った一文
個性優先の教育を行うことは、いじめの防止につながります。

著書は脳科学の面からいじめを捉えている。日本人は遺伝的に、いじめを抑制する脳内物質セロトニンが少ない人の割合が多く、それは既に江戸時代から引き継がれてきたということである。

これに対処するには、みんな違っていてもいいという均一性の低い集団を作ることが大切だと著書は述べる。そのために、学校での「団結」の在り方を見直すことや、道徳教育の在り方などについて提言している。善の中にある悪、悪の中にある善を教え、人間の多様なあり方を学習する場として学校が機能することが必要であるとしている。

*10代の子をもつ親に伝えたいこと 尾木 直樹
PHP研究所 ￥620
*女子の武士道 石川真理子
致知出版社 ￥1,400
*動かす デール・カーネギー
創元社 ￥650

美合小 畔柳 朋典

ほほえ 微笑ましく我が子を見守る親の姿が、乙川河川敷に広がる。彼らも数十年前は「こどもまつり」の主役だったか。およそ半世紀も続いたこのまつりを、子供たちが親となるまでつなぐために、楽しい思い出を我が子に残そうと河川敷に向かう。

徳川家康が使っていた三つ葉葵が描かれた味噌六太鼓。

岡崎ならではの太鼓で岡崎ならではの祭りを作り上げたいと願う三浦氏。

新たな文化や伝統を生みだそうとする、ふるさと岡崎に対する誇りや愛にあふれた熱い思いを感じた。

どホ

ツ

使い慣れた絵筆に、新たな色をなじませる。目前の自然の形や色を思い思いにキャンバスに描き出していく。絵を描くことで、学区の自然や建造物のよさを改めて感じられる。子供たちの情感を育てる授業を大切にしていきたい。

泉月



東公園 写生会 (甲山中)